

生徒の語彙や表現を豊かにする研究

一やり取りを通しての語彙指導と

『「コーパス」を活用した中学生のための英語表現集(増補版)』の作成を通して一

教科研究センター 小中学校教科研究課 英語教育グループ

吉田朋世 栗原忍 小竹紀子

語彙学習は、外国語学習の土台である。語句を活用するためにはその意味だけでなく綴りや発音、文法的な使われ方等を知らなければならない。そうして知った語句はまず、聞いたり読んだり(=受信)する時に使われる受容語彙となるが、話すこと・書くことを踏まえた言語活動をするには不十分である。従って、語句の意味や使い方を知識として身につけさせることにとどまらず、生徒がその語句を使ってコミュニケーションができるようになる語彙指導、つまり受容語彙を話したり書いたり(=発信)するのに使える発信語彙にまで高める指導が必要になる。その際教師はすべての語句を同じように指導するのではなく、「単語の目利き」をして出現頻度の高い語句にしぼって指導することが必要である。

〈キーワード〉 受容語彙、発信語彙、単語の目利き、コーパス

I はじめに

平成29年度は、中学生が書いた英作文と、英語表現を頻度別に示したコーパスのデータベースを基に、生徒が発表や英作文等の表現活動(話すこと・書くこと)に取り組む手助けとなる教材を作成した。

平成30年度は、中学生を対象に語彙や表現を豊かにすることを目的とした2つの研究に取り組んだ。

- (1) 英語でのやり取りによる語彙獲得に関する研究
- (2) 『「コーパス」を活用した中学生のための英語表現集(増補版)』の発刊

II 英語でのやり取りによる語彙獲得に関する研究

1 研究の目的

通常の授業で新出語句を導入する際、英語でのやり取りを通して、その語句がどのような状況下でどのように使われるのかを示しながら生徒のインプットやアウトプットを増やすことで、生徒の語彙の獲得にどのような変容をもたらすかを調べる。また、リーディングの授業で新出語句を導入する際、語注を読ませることが生徒の語彙の獲得にどのような変容をもたらすかを調べる。

2 研究仮説

仮説1 やり取りを用いて導入した新出語句は、やり取りを用いないで導入した新出語句と比べてより大きい割合で受容語彙から発信語彙に変化し、長い期間定着する。

仮説2 リーディングをする際、効果的な語注を付けた新出語句は、語注を付けなかった新出語句と比べて長い期間定着する。

3 研究の実践

- (1) 研究協力校・対象クラス

あわら市内の中学校1校で3年生の1クラス計14名の生徒を対象に行った。この研究協力校では3年生対象に習熟度別授業を取り入れている。標準クラスと基礎クラスに分かれており、研究対象は標準クラスである。

(2) 実践期間

平成30年5月～平成30年10月

(3) 実践の経緯

平成30年5月 研究協力校に研究目的と概要を説明

平成30年6月 研究協力校で授業実践（1回目）

平成30年7月 研究協力校で授業実践（2回目）

平成30年9月 研究協力校で授業実践（3回目）

平成30年10月 研究協力校で授業実践（4回目）・研究協議会

特別研究員の投野由紀夫氏（東京外国語大学教授）から御指導を受ける

(4) 仮説1の検証にむけての実践内容

① やり取りで導入する語句と、導入の仕方の選定

やり取りで導入する語句を1回の授業につき2～3つ選定した。選定の基準は、CEFR-J Wordlist のランク A1（中学2年生程度）、A2（中学3年生～高校1年生程度）までの基本的な語彙であること（三省堂エースクラウン英和辞典で確認）、これからの言語活動で生徒に使えるようになって欲しい語彙であること、とした。

やり取りで導入する語句を決定した後、それぞれの導入の方法（身近な例で示す・既習同意語等で示す・絵や実物で示す・ジェスチャーで示す等）を決めた。

② 授業で新出語句導入

新出語句全体をフラッシュカード等で導入した。その後は、①で選定した語句をやり取りで導入した。

実際のやり取り例（Unit 5－4）

1) be afraid of の導入

T: (フラッシュカードの英語面を見せ、ジェスチャー・表情をつけながら)

I'm afraid of bees. I'm scared.

S1: Wife?

T: My wife? Of course I'm afraid of my wife. I'm afraid of bees, spiders, cockroaches ...

How about you? Who or what are you afraid of? Now, ask your partner.

(ペアで活動する。その後、クラスでシェアする。)

T: I'm afraid of bees. How about you?

S2: I'm afraid of ghosts.

T: Oh, you are afraid of ghosts. How about you?

S3: I'm afraid of entrance examinations.

T: Oh, you're nervous.

2) machine の導入

T: (フラッシュカード英語面を見せて) How do you pronounce this word?

S4: Machine.

T: Yes. Everyone, repeat. Machine.

Ss: Machine.

T: (洗濯機の写真を見せて) This is a machine. I am going to buy this machine.

S5: 洗濯機?

T: Yes. 洗濯機 is washing machine in English. Washing machine.
 Ss: Washing machine.
 T: (ミシンの写真を見せて) How about this one? Do you know this machine?
 S6: マシン? ミシン?
 T: Machine! This is a sewing machine. Sewing machine.
 Ss: Sewing machine.

③ ユニット終了時に、語彙表現テストを実施

ユニット終了時に、やり取りで導入した語句の中から5つと、やり取りを使わずに導入した語句の中から5つを選び、語彙表現テストを実施した。質問項目は、次の3点である。

問1 日本語で意味を書きなさい。

問2 この語句を使って何か英文が言えますか。(言える/言えないの選択)

問3 語句を1つ選び、その語句を使った英文を書いてみましょう。(記述)

④ 1カ月後に同じ語彙表現テストを実施し、定着度を測定 (④はUnit 3のみ実施)

(5) 仮説1の検証

表1は、Unit 3～5の終了直後にそれぞれ実施した語彙表現テストの結果の平均である。意味の正解率は、やり取りを用いて導入した語句の方が12%上回り、より高い割合で受容語彙として定着した。また、その語句を用いて「英文が言える」と思う割合は、やり取りを用いて導入した語句の方が、やり取りを用いず導入した語句より17%上回った。やり取りを用いる場合、生徒は自分の身近な話題について簡単な英文を聞いたり話したりすることになる。すると生徒はその語句の

表1 Unit 3～5新出語句導入時のやり取りの有無による正解率の違いと、「英文が言える」意識の違い

	やり取りを用いて導入した語句	やり取りを用いず導入した語句
意味の正解率	83%	71%
「英文が言える」率	69%	52%

持つ意味をとらえるだけでなく、どのような場合にどのような使われ方をするのかを体感できる。その効果が、「英文が言える」率の差に現れたと考えられる。その語句を使って「英文が言える」かは、生徒の自己申告ではあるが、やり取りを用いて導入すると英文が言えるようになる確率が高くなると言える。

次に、Unit 3終了直後に行った語彙表現テストとその1カ月後に行った語彙表現テストの変容を見る。まず、正解率の変容(表2)である。

表2 Unit 3新出語句導入時のやり取りの有無による正解率の違いと1カ月後の変容

	やり取りを用いて導入した語句における意味の正解率 (A)	やり取りを用いず導入した語句における意味の正解率 (B)	(A) - (B)
Unit 終了直後	87%	73%	14%
1カ月後	89%	64%	25%
正解率の変容	2%上昇	9%低下	

Unit 3について、やり取りを用いて導入した語句における意味の正解率 (A) と、やり取りを用いず導入した語句における意味の正解率 (B) の比較、および語彙表現テスト1回目 (Unit 終了直後) と2回目 (1回目の1カ月後) の正解率の比較である。表1の結果と同じく、やり取りを用いて導入した語句の方が、やり取りを用いず導入した語句よりも正解率は高く、より高い割合で受容語彙として定着した。また、やり取りを用いて導入した語句は1カ月経過しても正解率が落ちず、やり取りを用いず導入した語句は正解率が9%低下した。このことから、導入時のやり取りは記憶の定着に効果があるかもしれないということが分かった。ただし、2回の語彙表現テストの間にやり取りを用いて導入した語の記憶を強化する事項があったかどうかは確認できていない。

表3は、Unit 3において、やり取りの有無によって生じる「実際にその語句を使って英文が言える」と思う生徒の意識の違いと、1カ月後の変容である。

表3 Unit 3 新出語句導入時のやり取りの有無によって生じる「英文が言える」と思う意識の違いと、1カ月後の変容

	やり取りを用いて導入した語句 を使って英文が言えると思う (C)	やり取りを用いず導入した語句 を使って英文が言えると思う (D)	(C) - (D)
Unit 終了直後	79%	50%	29%
1カ月後	84%	59%	25%
意識の変容	5%上昇	9%上昇	

表1と同じように、やり取りで語句を導入すると Unit 終了直後の英文が言えると思う割合が高まっている。また、1カ月後になると、やり取りの有無に関わらず、その語句を使って英文が言えると思う割合が高まっている。これは今回の実践に関係なく、1カ月間、生徒が授業内外で学習した成果の現れだと思われる。ただし、やり取りを用いた方が英文が言える割合は25%高く、ここでもやり取りの効果が現れている。

次に、表2と表3の差を表したものが表4である。表2は受容語彙としての定着、表3は発信語彙としての定着を表すので、その差を表した表4は、受容語彙から発信語彙へ変容できなかった割合を示す。よってその値が小さいほど受容語彙から発信語彙へスムーズに変容していることになる。

表4 表2と表3のデータの差 (受容語彙から発信語彙にならなかった割合)

	やり取りを用いて導入した語句の変容 (意味がわかる) - (英文が言える)	やり取りを用いず導入した語句の変容 (意味がわかる) - (英文が言える)
Unit 終了直後	$87 - 79 = 8\%$	$73 - 50 = 23\%$
1カ月後	$89 - 84 = 5\%$	$64 - 59 = 5\%$

表4の Unit 終了直後の数値を比べると、やり取りを用いて導入した語句は、やり取りを用いず導入した語句と比べて受容語彙から発信語彙へよりスムーズに移行していると言える。

また、Unit 3～5の各語彙表現テストの最後に、1語句を選ばせ英文を自由に書かせた。その結果が表5である。

表5 「英文が言える」と思う語句の中から1語句を選び英文を書いた割合と、英文の例

やり取りを用いて導入した語句を使って 書かれた英文の割合： 52%	やり取りを用いずに導入した語句を使って 書かれた英文の割合： 48%
英文の例 (_____ が新出語句) I have <u>never</u> bought a car. We have to <u>prepare</u> for earthquakes. I'm <u>afraid of</u> dogs. I don't have <u>enough</u> time to study English.	英文の例 (_____ が新出語句) We should <u>keep thinking</u> about peace. It's <u>necessary</u> for us to study for future. I will not forget the <u>past</u> . I'll work on a <u>farm</u> .
14人の生徒のうち3人以上が選んだ語句 ・ never (1名) ・ prepare (3名) ・ be afraid of (3名)	14人の生徒のうち3人以上が選んだ語句 ・ keep ~ing (6名) ・ necessary (4名) ・ past (3名)
14人の生徒のうち 誰も選ばなかった語句：6語句 ・ support ・ behind ・ in case of ・ until ・ though ・ against	14人の生徒のうち 誰も選ばなかった語句：7語句 ・ seem ・ themselves ・ choose ・ millions of ・ industrial ・ exactly ・ precisely

表5より、生徒が1語句を選び、それを用いて書いた英文の割合において、やり取りありが52%、やり取りなしが48%となり、やり取りの有無での差はほとんど生じなかった。また、生徒が書いた英文を見ると、ほとんどが自分の経験や思いをIやWeから始めて書いていた。やり取りの有無に関わらず、「英文が言える」と思う語句の中から自分の書きたい内容にあうものを選び、文を書いたようだ。

また、表5の「14人の生徒のうち3人以上が選んだ語句」には、そのUnitの基本文で出てきたものが複数あった。(ここでは、never, prepare, necessaryの3語であった。)Unit終了時のテストということもあり、記憶に残っていたUnitの基本文を生徒が利用して英文を書いたとも考えられる。表5での調査項目に関しては、新出語句をやり取りで導入したことへの効果は見られなかった。

(6) 仮説2の検証にむけての実践内容

① 語注を付ける語句と語注の付け方の選定・リーディング教材(図1)の作成

New Horizon 3 52ページのChallengeを用い、リーディング用教材を作成した。その際、教科書のように本文の下方に語注を付けるのではなく、本文の右側に語注の欄を設けて参照し易くした。

語注の付け方は、絵や図で示す・日本語で説明する・英語で言い換える・ヒントを選択式にする、などとした。

② 図1リーディング教材と、教科書にある内容理解に関する問題を用いた、生徒各自のリーディング活動

③ 語注・ストラテジーの解説

語注の他にプリント(図2)を用いて、ストラテジーの解説を行った。ここで言うストラテジーとは「学習者が自分の学習過程をより良くするために活用する様々な手段・方法」を指す。語句を記憶するのに役立つ方法や未知語に遭遇した際にその意味を推測できるような方法として、「ルールを見つける」「実物を利用する・体を動かす」「イメージを利用する」の3つを生徒に紹介した。

④ 教科書にある内容理解に関する問題の解説

⑤ アンケート・語彙テストの実施

図2の3つのストラテジーについて「理解できたか」・「これからも使えそうか」をアンケートで尋ねた。また、語注で導入した語句の中から3つと、語注を使わなかった語句の中から3つを選び、語彙テストで意味がわかるかを調べた。

⑥ 2カ月後に同じ語彙テストを実施し、定着度を測定

(7) 仮説2の検証

表6は、語注の有無による正解率の違いと、2カ月後の正解率の変容である。

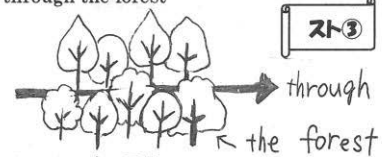
<p>aitinen. I'm a junior high school trip. Lapland is a popular among tourists for ally beautiful.</p> <p>My favorite ed, and huskies exciting.</p> <p>urposes of this</p>	<p>【語注(文中の難しい語の説明をしています)】</p> <ul style="list-style-type: none"> Paavo Laitinen パーヴォ・ライティネン(人名) Finland フィンランド(国名) Helsinki ヘルシンキ(フィンランドの首都) more than 10 years = over 10 years Lapland ラップランド(ロシア、フィンランド、スウェーデン、ノルウェーにまたがる地域) region 正しい方を選びなさい。 ア) language イ) place northern = north(北)+ern tourist = tour(旅)+ist スト① nature 正しい方を選びなさい。 ア) 自然 イ) 人間 activities ← activity got on ... (動作を試みよう) スト② ← get on ... sled 正しい方を選びなさい。 ア) 車 イ) そり pull(ed) 正しい方を選びなさい。 ア) 押す イ) 引く through the forest スト③ 
--	--

図1 リーディング教材(語注欄の抜粋)


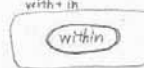

<p>ストラテジー① ルールを見つける(接頭辞・接尾辞など) 語の頭やしっぽに付いている文字を取ると、意味がわかることがある! northern = north(北)+ ern(方角の) ではこの言葉の意味は? western () tourist = tour(旅)+ ist(人) ではこの言葉の意味は? scientist () fortunately = fortune(幸運)+ ate(否)+ ly(…ことに、…そうに)</p>		
<p>ストラテジー② 実物を利用する・体を動かす 動作をしながらの暗記は覚えやすいと言われていました。 英語を言いながらその動きを試みましょう! また、日本語の意味を文字で覚えるだけでなく、実物や写真などを見ても覚えやすくなります</p>		
<p>ストラテジー③ イメージを利用する イメージを利用することで、覚えやすくなり、他の文にも応用がききます。辞書も試みよう。</p>		
<p>through ~ ~を通過して  The Amazon runs through a huge rain forest.</p>	<p>within ~ ~の中で(に) with+ in  I'll be back within 10 minutes.</p>	<p>behind ~ ~の後ろに(で)  The moon is behind the clouds.</p>
<p>余力のある人は、もう1つ試してみよう ストラテジー④ キーワードを使う 例 listen(リッスン:聞く) → リスに向かって「よー聞きや。」 同じように作ってみよう! region(リージョン:地域) →</p>		

図2 ストラテジー解説プリント(抜粋)

表6 リーディングにおける語注の有無による正解率の違いと、2カ月後の正解率の変容

	語注ありで読んだ語句・文の 正しい意味がわかる	語注なしで読んだ語句・文の 正しい意味がわかる
授業終了時	90%	74%
2カ月後	64%	69%
正解率の変容	26%下降	5%下降

表6の授業終了時の数値では、語注ありの正解率が語注なしを上回った。特に「イメージを利用する」というストラテジーを使って説明した *through the forest* と、「体を動かす」というストラテジーを使って説明した *We got on a sled.* の2問は全員正解で、生徒の記憶に強く残ったようだった。また、図2でストラテジーの4番目として紹介したキーワード法は、語彙学習を直接的目的として行う意図的学習の1つとされており、ここでは生徒に自由に考えさせた。生徒の考えた例としては、「パンパ、ストアに行く目的は？(purpose:目的)」、「プールの水を引く(pull:引く)」などがあつた。

この授業は7月に行ったので、夏休みをはさんで2カ月後に2回目のテストを行った。その結果は表6の通りで、語注の有無による差は見られなかった。2カ月空いたから語注ありの語句の正解率が下降したのか、それとも他に原因があるのかは不明である。ただ、少なくとも授業終了時には語注やストラテジーの効果は見られたので、その語句を忘れる前に復習する機会を設けるなど、記憶の長期定着につながる活動と併せることで改善できると考えられる。また、このリーディングに関する調査は7月に1回実施したのみでサンプル数も少なく、継続的な調査が必要である。

図3は、3つのストラテジーを理解できたか、これからも使えると思うか、について生徒対象にアンケートを行った結果である。

肯定的な回答が得られた。生徒が各自で語彙学習に取り組めるように、無理のない範囲でこのようなストラテジーを指導することは、効果的であると考えられる。

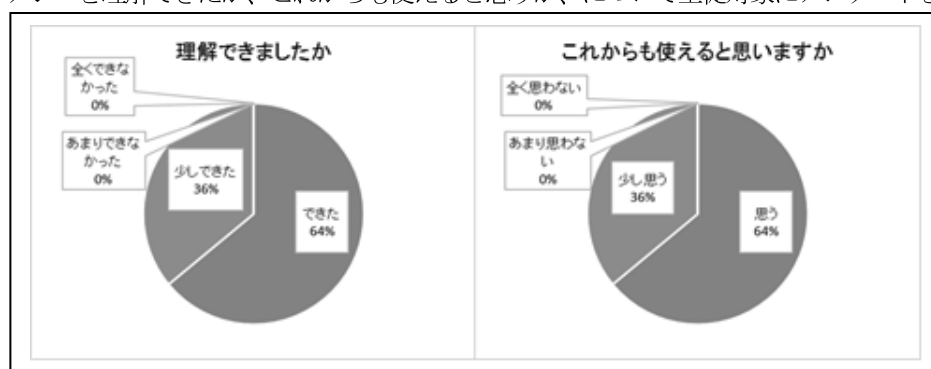


図3 ストラテジーについてのアンケート結果

(8) 成果と課題

今回の実践においては、英語でのやり取りを用いて導入した新出語句は、やり取りを用いないで導入した新出語句と比べて、受容語彙として及び発信語彙としてより大きい割合で定着し、やり取りに一定の効果が見られた。したがって、やり取りは即興性を育てるだけでなく、語彙の定着にも有効であると言える。やり取りをして導入する語句を目利きし、精選して生徒に与えることが大切である。

また、リーディングでの新出語句の意味の定着において、学習直後には語注の効果が見られたが、学習後2カ月では語注の効果が見られなかった。原因として、学習してから2カ月後の調査までの期間が長く、語注の効果で覚えていた語句も忘れてしまったということが考えられる。学習後の効果的な復習のありかたについて研究や検証を重ねることが、今後の課題である。

4 研究協力校での研究協議会

10月に、当研究所先端教育研究センターの特別研究員である東京外国語大学の投野由紀夫教授に授業実践（4回目）を見ていただき、研究協議会を行った。以下に、授業における語彙指導についてご教授いただいたことを示す。

(1) 語彙指導は新出語句にこだわらなくてよい。今回（New Horizon 3 Unit 5 Living with Robots — For or Against）は議論をするレッスンで、議論の時に使える語彙を教科書本文から取り上げるとよい。今回なら、

① ロボットを describe する語彙（ロボットの描写・ロボットは何ができるか等の事実情報を述べる文、例えば、Robots canここに入る言葉を考えさせる。）

② 自分の opinion を表現する文（I think などの定型文、Robots areなど形容詞で価値判断を表す文）

③ 自分の feeling を表す文（ロボットに対する印象を述べる文）

の3つを要素として意識させ、それらがどんなときに使われるのかを整理し、効果的な定型を与えると良い。（例えば①→②→③や、②→その evidence として①、など。）①～③の本文を色分けさせてもよい。目の前の新出語句や文法事項におぼれることなく、「この語彙にはどのような function があるのか」、「このテキストは何を教えるためのものか」を考える。そこで学ばせるべき語彙が決まる。

(2) discussion での turn-taking にも慣れてほしい。（Let's talk about ～. What do you think? I think ～. I agree with you in part. など。）

(3) 教員は全体的なレッスン構成を鳥瞰し、重要だと思う語彙を目利きしなければならない。テキストを見て、そこで学ぶべき語彙の軽重を判断することが非常に大切である。少し語彙レベルが高いと思う語句については、読んで意味がわかるレベル（受容語彙）にとどめておく。

Ⅲ 『「コーパス」を活用した中学生のための英語表現集（増補版）』の発刊

1 作成の意図およびコンセプト

平成29年度は、『「コーパス」を活用した中学生のための英語表現集』（以下、「表現集」）を発刊した。これは、生徒が表現の幅を広げることができるように、授業での表現活動で取り上げられることの多いトピックに関する頻出表現や、生徒が英語で表現しようとしているが伝えきれていない英語表現を、例文の形で提示している。また、表現に多様性を持たせるため、生徒から収集した英作文のデータに加えて、NHK エデュケーショナルの「基礎英語 LEAD」に収録されているNHK「基礎英語」のスキットの例文も抽出した。さらに、特別研究員の投野由紀夫教授の専門であるコーパス言語学の知見を生かして、複数の表現を提示する場合には、それぞれの表現について、実社会での使用頻度の情報を付加することにした。

平成30年度は、上記の表現集の内容を継承しつつ、福井のことや日本文化的な事象をより充実させるために加筆修正を行い、『「コーパス」を活用した中学生のための英語表現集（増補版）』（以下、「表現集（増補版）」）を発刊することにした。本年度はNHK エデュケーショナルの「基礎英語 LEAD」に収録されている「エンジョイ・シンプル・イングリッシュ」からも例文を抽出して表現に多様性を持たせている。また、研究協力校には平成29年度版の「表現集」の授業での活用と、活用後のアンケート調査協力を依頼し、アンケートの内容を「表現集（増補版）」の幾つかの項目に反映させている。

基本的に、各学校2冊ずつ配布し、更に各学校の英語教員が自主教材を作成する際に活用できるように、編集可能なCDデータを収録し、増補版とセットにした。

2 「表現集（増補版）」の構成

図4は「表現集（増補版）」の構成である。Chapter I～IIIの例文や表現に関しては、必要に応じて表現を修正してあるが、構成に変化はない。しかし、グレーで網かけがしてある部分は、「表現集（増補版）」の中で大幅に改良もしくは加筆した。そこが「表現集（増補版）」の特徴となっている。

<p>推薦の言葉、本書の使い方、本書のしくみ</p> <p>Chapter I 事実・情報を伝える</p> <p>1 自分のことを伝える</p> <p>a 家族構成のこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の人数や構成を伝える <p>b 趣味・得意なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の趣味を伝える ・自分の趣味について説明する ・得意・不得意なことについて表現する <p>c 進路のこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の自分のことを伝える ・自分の将来への願望を表現する ・自分の将来への願望の理由、目的を表現する <p>2 日常生活・学校生活のことを伝える</p> <p>a 家族・友人・先輩・後輩等のこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族のことを伝える ・友人のことを伝える ・先輩・後輩のことを伝える <p>b 憧れの人・目標の選手・アイドル・歴史上の人物・偉人等のこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物像を伝える ・その人の功績や有名なことを伝える <p>c 学校のこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の概要（場所・規模など）を伝える ・学校の様子・特色を伝える <p>d 学校生活のこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登下校について伝える ・学校ですることについて伝える <p>e 学校行事に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事の概要について伝える ・行事ですることについて伝える <p>f 習慣（普段すること・休日や余暇にすること）に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段の生活について表現する ・普段の休日の過ごし方について表現する ・特別な休日の過ごし方について表現する <p>g 運動に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分がしている運動について表現する ・自分がしている運動の実績について表現する ・自分がしている運動の目標について表現する <p>3 国や地域のことを伝える</p> <p>a ふるさと・福井のこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場所を伝える ・有名なもの等を紹介する ・環境を紹介する <p>b 観光地・行ってみたい場所のこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場所を伝える ・有名なもの等を紹介する ・環境や状況を紹介する ・引用して紹介する <p>4 自分の経験を伝える</p> <p>a 過去に活動したことや経験したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際にしたことについて表現する （誰かと一緒にしたこと）（主に一人でしたこと） <p>b 旅行で経験したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行先で見た特徴を説明する ・旅行先でしたことについて表現する <p>5 社会で起きていることについて伝える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活・くらしに関わること ・伝統・文化に関わること ・社会・経済に関わること <p>b 日本で起きていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然・環境に関わること ・ひと・くらしに関わること ・伝統・文化に関わること ・社会・経済に関わること <p>c 世界で起きていること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然・環境に関わること ・ひと・くらしに関わること ・伝統・文化に関わること ・社会・経済に関わること <p>Chapter II 気持ちや感情を伝える</p> <p>1 ポジティブな気持ち・感情を伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嬉しい気持ち、前向きな気持ちを表現する ・好きなことについて表現する <p>2 ネガティブな気持ち・感情を伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネガティブな気持ちを表現する ・嫌いなことについて表現する <p>Chapter III 考えや意図を伝える</p> <p>1 自分の意見・感想を伝える</p> <p>a 賛成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の意見に賛成する ・話題・トピックに賛成する <p>b 反対する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の意見に反対する ・話題・トピックに反対する <p>c 相づちをうつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の意見に相づちをうつ <p>d 文学、音楽、映画、芸術に関することについて考えを述べる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想を述べる ・感想に具体的な情報を付け加える <p>e 出来事の感想を述べる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の感想を述べる ・実際にしたことや見たことについて感想を述べる ・世界の出来事について感想を述べる <p>f アイデアを提案する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手を誘う ・提案を述べる ・申し出る <p>g 将来の夢・希望・抱負を伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来したいことを伝える ・条件を付けて、したいことを伝える ・したいことにいろいろな情報を付け加える <p>【付録】</p> <p>A Piece of Advice for Writing</p> <ul style="list-style-type: none"> ①エッセイ・ライティングの基本 ②相手にわかりやすい文章にするために <p>グリフィス博士の「ファーストリーダー」</p> <p>For Your Vocabulary Building</p> <ul style="list-style-type: none"> ①様々な行事（地域の行事・学校行事） ②福井の特産品や福井を象徴するキーワード ③「ふるさと福井の先人100人」から ④社会問題 <p>New Horizon と本書との対照表、参考文献</p>
---	--

図4 「表現集（増補版）」の構成

3 「表現集（増補版）」の5つの特徴

- (1) 『グリフィス博士の「ファーストリーダー」』の一部を収録（図5）

福井にゆかりのある理化学教師で日本研究家でもあったグリフィス博士が作った初級用英語教科書 *The First Reader of the New Japan Series* (以下、「ファーストリーダー」) の概略と、中学生が理解できるような日本文化を紹介することにした。明治時代に書かれた簡単な英文を読むことで、外国人から見た明治時代の日本について中学生に読み味わってもらおうことをねらいとしている。

グリフィス博士の「ファーストリーダー」
～福井にゆかりのあるグリフィス博士が作った初級用英語教科書 *The First Reader* を読んで
外国人からみた明治時代の日本について知ろう！～

 再び、トニー先生です。さて、中学生パンダ君は昔、福井で理化学教師をしていたグリフィス博士のことを聞いたことはあるかな。今日は、明治時代に彼が書いた日本人向けの初級用英語教科書を持ってきました。



グリフィス博士と初級用英語教科書 *The First Reader*

図5 『グリフィス博士の「ファーストリーダー」』コーナー（抜粋）

(2) 『For Your Vocabulary Building ②福井の特産品や福井を象徴するキーワード』の収録(図6)

平成29年度版の「表現集」の「For Your Vocabulary Building ②福井の特産品(それ以外もあるよ)」の内容には地域的な偏りが見られたり、紹介されている特産品が少なかったりした。また、研究協力校の「修学旅行」をトピックとした生徒が書いた英作文の中に、「東京のある商店街で福井の特産品や名所についてPR活動を行った」と記されていた。そこで平成30年度版の「表現集(増補版)」では、県内全域の福井の特産品と福井を象徴するキーワードを、①名所、②福井の特徴的なことの2つに分け、福井に関するキーワードを追加することにした。

For Your Vocabulary Building ②福井の特産品や福井を象徴するキーワード
*福井県が出している英語対訳表を参考にしています。

特産品(50音順)

油揚げ deep-fried tofu / fried soybean curd

梅干 pickled plum / dried and salted plum

永平寺ごまどうふ Eiheiji sesame tofu
 *pasted sesame and kuzu-vine starch
 *実際は豆腐ではなく、練りごまとくずで作られている

図6 『For Your Vocabulary Building ② 福井の特産品や福井を象徴するキーワード』コーナー(抜粋)

(3) 『For Your Vocabulary Building ③「ふるさと福井の先人100人」から』の収録(図7)

平成28、29年度に福井県教育委員会が発刊した「ふるさと福井の先人100人」から中学生になじみのある15人を取り上げて、4～5文程度の英文で紹介することにした。特に、中学3年生の英語の教科書には世界の偉人について詳しい情報を加えて説明するユニットがある。ふるさと教育の一環として福井にゆかりのある人々についても同様に、中学生が自分の言葉で福井の偉人を表現できることを目指して載せている。

For Your Vocabulary Building ③「ふるさと福井の先人100人」から

中学校3年生の教科書では、人について詳しい情報を加えて説明するところがあります。今回は「ふるさと福井の先人100人」の中から小中学生に知られている15人を選び、福井にゆかりのある人々について簡単な英語で説明しています。

Who is your favorite person among 100 famous people of Fukui?

(50音順)

朝倉孝景(あさくら たかかげ Asakura Takakage) 1543~1573
Asakura Takakage was a *feudal lord of Ichijo-dani(一乗谷), Fukui in the Sengoku period.
He created his own *Bunkoku-ho*(分国法), a series of laws made by a feudal lord to *rule the area.
He became the top of *samurai* in Fukui because he studied very hard and practiced *budo*.
*feudal lord 大名 rule 支配する

図7 『For Your Vocabulary Building ③「ふるさと福井の先人100人」から』コーナー(抜粋)

(4) 『エンジョイ・シンプル・イングリッシュ』のコンテンツの収録(図8)

NHKエデュケーショナルの「エンジョイ・シンプル・イングリッシュ」は、中学3年生レベルの簡単な英文で1つのトピックを400語～500語程度で紹介している。平成30年度版の「表現集(増補版)」への掲載については、日本文化的な事象(落語)を選び、著作権の関係上、そのまま掲載してある。なお、英文の対訳は研究所のオリジナルのものである。

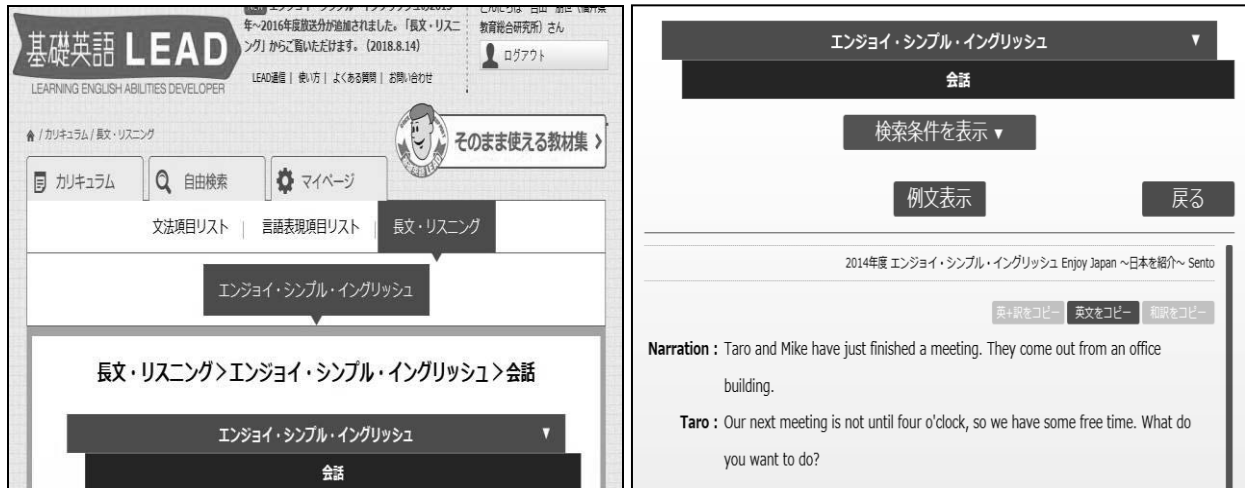


図8 『エンジョイ・シンプル・イングリッシュ』のコンテンツ

(5) 例文や表現の加筆修正(図9)

研究協力校1校の中学3年生に、「修学旅行」のトピックで平成29年度版の「表現集」の活用を依頼し、活用後のアンケート調査に協力していただいた。具体的なアンケートの内容は、「『表現集』に掲載されていない表現で書きたかった表現は何ですか」を問うものであった。そのアンケート結果から新たに「表現集(増補版)」に追加すべき語句を選び、「Chapter I 4. 自分の経験を伝える b 旅行で経験したこと」の項目の「(Note) 名所・観光地を表現する」に反映させている。例えば、生徒の英作文には、「東京のある商店街で福井県をアピールするために広報活動を行った」と書かれていた。アンケートによると、「商店街」、「研修」、「PR活動」などの表現は教科書に載っておらず、先生に聞いたり辞書で調べたりしたと記述してある。また、「スカイツリーの展望台で景色をみて、お台場のテレビスタジオを見学した後でお土産を買った」とも書いてあり、このような英作文の記述に必要な表現を新たに追加した。

(Note)名所・観光地(五十音順)		(名所)	
(施設)			
市場	market	遺跡	ruins/remains
駅	station	海	sea
空港	airport	温泉	hot spring
劇場	theater/theatre	海水浴場	beach
商店街	shopping district/street	渓谷	valley
植物園	botanical garden	(国立)公園	(national) park
ショッピングモール	shopping mall	皇居	Imperial Palace
水族館	aquarium	城	castle
スカイツリー	Skytree	神社	shrine
スタジアム	stadium	世界遺産	World Heritage Site
タワー	tower	滝	waterfall
中華街	Chinatown	寺	temple
ディズニーランド	Disneyland	洞窟	cave
TVスタジオ	TV studio	波止場	harbor/harbour(英)
展望台	observation deck	湖	lake
動物園	zoo	山、～山	mountain, Mt.～
ドーム	dome	(その他)	
博物館	museum	お土産	souvenir/present
美術館	art museum	研修	internship/ training program
プラネタリウム	planetarium	公共交通機関	public transportation system
ホテル	hotel		
遊園地	amusement park		

図9 「Chapter I 4. 自分の経験を伝える b 旅行で経験したこと」の項目の「(Note) 名所・観光地を表現する」の抜粋

IV 研究のまとめ

平成30年度は、生徒の語彙や表現を豊かにするための研究として、「やり取りを通しての語彙指導の研究」と『「コーパス」を活用した中学生のための英語表現集（増補版）』の発刊を研究協力校の協力をもとに行なった。

語彙力を高めることは外国語学習の土台である a と導入部でも述べたが、やはり生徒に効果的に語彙や表現を習得させるには、教師が単元全体を鳥瞰的に見通しながら、日常的に出現頻度の高い語を取捨選択して生徒に与える必要があるだろう。その際には、ただ提示するのではなく、まずは、やり取りを通して生徒に表現や内容を推測させる工夫や、生徒自身が本当に表現したいことがらを試行錯誤して表現する過程を通して受容レベルから発信レベルにつなげていくことが重要である。それには、やり取りが有効な手段の1つになると考えられる。

また、『「コーパス」を活用した中学生のための英語表現集（増補版）』においても、日常的に優先度が高い表現を掲載したり、生徒の興味・関心がある話題の中から本当に表現したいことを追加したり、生徒がふるさと福井や日本のことを発信して世界に自分の意見・考えを表出できるようにするための参考資料となるように配慮した。英語の授業や補習授業で広く活用されることを願っている。

来年度は、語彙や表現を豊かにするための手段として単元全体を見通しながら「Focus on Form や CLIL（内容言語統合型）」を導入した英語授業の展開について研究をする予定である。

本研究の実施にあたり、特別研究員である投野由紀夫氏をはじめ、研究協力員として御尽力いただいた先生方に、この場を借りて厚くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

《参考文献》

- 文部科学省(2017)『中学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省
- 相澤一美・望月正道(2010)『英語語彙指導の実践アイデア集』大修館書店
- 赤野一郎・堀正広・投野由紀夫(2014)『英語教師のためのコーパス活用ガイド』大修館書店
- 笠島準一・関典明 et al(2016)『NEW HORIZON English Course 1、3』東京書籍
- 門田修平・池村大一郎(2006)『英語語彙指導ハンドブック』大修館書店
- 大学英語教育学会 学習ストラテジー研究会(2006)『英語教師のための「学習ストラテジー」ハンドブック』大修館書店
- 東京外国語大学投野由紀夫 研究室 (2012)『CEFR-J を活用するための‘Can Do’ Descriptor リスト』
- 東京外国語大学投野由紀夫 研究室『CEFR-J Wordlist Version 1.3』
(URL: <http://cefr-j.org/download.html> よりダウンロード)
- 東京外国語大学投野由紀夫研究室(2013)『ELP Can do Descriptor Database』
(URL: <http://www.cefr-j.org/data/CanDoDescriptorBook1.0.pdf> よりダウンロード)
- 投野由紀夫(2013)『CAN-DO リスト作成・活用英語到達度指標 CEFR-J ガイドブック』大修館書店
- 投野由紀夫(2017)『エースクラウン英和辞典 第2版』三省堂
- 投野由紀夫(2015)『発信力をつける 新しい語彙指導』三省堂
- 投野由紀夫(2009)『Dr. コーパス直伝：ボキャブラリーの攻め方』アルク
- 投野由紀夫(2013)『CAN-DO リスト作成・活用 英語到達度指標 CEFR-J ガイドブック』
- 福井県教育委員会 (2016、2017)『ふるさと福井の先人 100 人』
- 福井県教育研究所 (2015)『研究紀要 第 120 号』
- 福井県教育研究所 (2016)『研究紀要 第 121 号』
- 福井県教育総合研究所 (2017)『研究紀要 第 122 号』
- 福井県教育総合研究所 (2018)『研究紀要 第 123 号』
- 福井県教育総合研究所 (2018)『「コーパス」を活用した中学生のための英語表現集』大修館書店
- 望月正道・相澤一美・投野由紀夫(2003)『英語語彙の指導マニュアル』大修館書店
- Norbert Schmitt(2000)『Vocabulary in Language Teaching』Cambridge
- William E. Griffis (1873)『The First Reader of New Japan Series』A.L.Bancroft&Company. Stone& Chipman